慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	空想の心理
Sub Title	
Author	小林, 乳木
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.1 (1909. 2) ,p.123- 129
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090201-0105

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ち。

天然は啻に米國に農業上幷に鑛業上の富源を賦與したるに止らず、更に運輸交通の方面に於ても亦高貴なる賦與を與ふるに吝かならざりき。米國内の一萬八千哩に亙る舟航し得可き河流は直接には輸達の便を與へ間接には鐵道を驅つて運賃を低落せしめ以て汽船艙船の競爭に供へしむるの効あるなり。殊に米國内の幾多の大湖は海に向つて通路なきの缺點あるも然も内國の運輸交通には無上の便益を與へ一方は豐饒なる銅鐵坑幷に鬱乎たる深林より他方は廣大無邊なる炭層に通じて絶好なる水路を供せり。今日此等諸大湖上の平均運賃率は一噸哩に付き僅に十分の六「シル」に過ぎず、而して毎年ソー、サン、マリー運河を通過する船舶の數は蘇士運河の五倍以上に昇れり。鐵道の敷設亦容易なる事業にして、米國人は其組織に獨特の妙腕を有すると共に其經營にも亦一種の特技を有し、漸次運賃低減に成功して今日に於ては平均一噸哩六「シル」となれり。之れ實に歐洲の如何なる國と雖も未だ曾て實現し得ざりし所にして、米國自身に於ても之れを三十年以前に比して其三分の一に減少したるを見るなり。

熱心なる保護論者より或る米國民にして國内交易の自由より享得する利益を喋々するを聞くは頗る趣味あることに屬するなり。洵に合衆國各州は世界に於て絶對的交易の自由を有する最も廣大なる地域を形成するものにして、前國務卿ブレインが其著「議會に於ける二十年間」中に記して「合衆國が斯く世界に類例なき發達を爲し巨大なる國富を蓄積し得たるは全く自由貿易と保護政策とを同時に併用したるの賜なりとす」と謂へるが如く、國内の廣大なる市場と急速なる人口の增加とは幸にして必然保護政策に伴ふ可き危險、就中自由競爭の杜絶及び販路を得るの困難より結果し來る諸般の障害より米國工業を救ふことを得せしめたるなり。

最後に合衆國は其工業制度を全く空白なる基礎の上に建設するを得たるに因りて利する所多かりしは何人も拒むこと能はざる事實なり。歐洲に於ては古代數世代の間幾多の傳說習慣を繼承し來りし職工團體、所謂職業組合は殆ど本能的衝動的に器械の使用に反抗し、甚しきは今日に至つても一部賃銀勞働者が絶えず新器械の使用に對して反對しつゝあるを見るなり。斯くの如きは何人も皆須臾も變轉止むことなき四圍の狀態の間に活き、一事業より他に移るに慣れたる米國に在りては殆ど之れを見ること能はざりしなり。遠く故郷を去つて新大陸に新運命を賭するの勇氣ある男子は固より進步改革を懼る可きの理あらざりしなり。茲に卽ち一國民の大を致さしむるに最も與つて力ある人格的條件は作用して天惠の物質的資料は初めて其運用を見るなり。半ば米國民は舊世界の產せる最も堅忍なる人民よりして形成せられたる故を以て、半ばは其四圍の結果として特に勢力的、企業的、進步的にして同時に機械を發明し之れを利用する才能を有せり。之れ實に米國民が其異常なる土地的富源と相俟つて偉大なる成功を贏ち得たる人格的特質にして、今日の奇蹟に近き進步發達を解くの鍵たるなり。

空想の心理

小林乳木

如何なる心的狀態が——空想——と云ふ語下に蔽はるべきであらう。普通の見解に從へば——空想は覺醒時に於ける現像の遊程（アイドルエキサーサイス）——であると云ふのであるが、しかしながら催眠狀態より生ずる再生形式も亦た恐らくは空想の範圍に屬すべきものであらう。

凡そ覺醒時と催眠狀態とを問はず感官の受けたる外界刺戟に對して或注意的活動を伴ふことは云ふまでもないが、フエヒネルはこの注意的活動を伴ふ刹那の心的狀態は睡眠時のそれと些の相違もない、言ひ換へればこの注意的活動以外の心的狀態は正に眠つてゐると云つた。この說に依らんか、吾人の心的生活は睡——醒の兩境に跨つてゐるもので、覺醒時に於てさへも眠れる局部を有すること

と、なる。かくて所詮は夢と空想との別も單に程度の差異に歸するに至る。但だ空想は、高低さま〴〵の程度を有する想像的再生的精神活動を包含するものと云ふに過ぎない。乃ち空想舞臺の兩極は一面催眠狀態に至つて止まり他面主觀の充足したる有目的思考狀態の手前に止まつてゐる。

空想は年齡には殆ど全く關はらない所の普遍的現象である。殊に青年期に於ける特色である。空想の內容は主として還象に依て決定せられ、その形式は夢と同じやうに年齡身體の强弱、及び心的發展の程度に左右せられる。

七歲から八歲までの空想はその內容を遊戲若くは「して見たい」、「開いて見たい」等のたゞ事に取つてゐる。一體小兒の記憶心象は甚だたしかなものでまた空想は如何に變らうとも空想中の主人公は常にわれ自らであることは注意に値する。遊戲と云つても自然に接觸して五體の運動を自由にならしむる戶外遊戲が彼等に尤も好まれる所で、たゞ事の中では食ひたい物の心象の意識の大部分を占めてゐる。富める小兒と貧しい小兒との間には同じ食ひたい空想にも著しい相違がある。貧しい小兒は「決して餓ゑないこと」、「十分の食物を蓄へること」が最大幸福、最大慾求であるかの風が見える。八歲から十歲までの少女は能く物語めいた空想——可能事と不可能事とを混淆梅鹽したやうな空想を描くものであるが同年の少年にはその類の空想は餘り多くはない。ありとすればそは少女のそれよりも一層架空的に傾く。それから富みたい空想、これは富むべき論理的理由を求めてゐる點に於て合理的で、富める曉の幸福を念頭に置き富その物を手段と見る點に於て非現實的である。しかし所謂富める曉の幸福は本質上實際的物質的に傾くことは爭はれない。富みたゞ空想は往々にして商業的本能に基くもので强い商業的本能は想像力の乏しいことを示すものである。十歲から十四歲までの空想は殆ど遊戲體育の埒を越えるものでない。漁獵、釣魚、競走、旅行、冒險等は皆是れ彼等が空想の對象なのである。

名譽の空想は青年時代に始まる。少年時代に於てもわれの存在を認めて貰ひたい要求はないではないけれどもそは當面的一時的の要求で稀に近き將來に望屬する計りである。青年時代は之に反して遠き將來に望みを屬するやうになる。

二十歲頃から書籍の影響を受くることが夥しくて嘗て讀んだ書籍を單に再生したぐらひの極く想像の乏しい空想を描くか若くはその書籍を原料として織り成せる空想を描くのである。

茲に又少年青年の時代を通じて作話的空想と云ふのがある。每夜のこと何等かの物語を作り上げては就眠したと云ふ話、時とすると同じ物語を作り續けたと云ふ話は能く耳にする所。之と關聯して現實の友人、偶々出會ふ他人、歷史上の人物、想像的人物などを相手に空想的會話を換はすこともある。

男子にありては十七歲以上、女子にありては尙ほ早き頃よりしば〴〵戀愛及結婚の空想が經驗せられる。德行ある配偶者を得たる將來の此上なき幸福を空想したり家の造りや家具や裝飾までも空想するのである。女子の空想する家屋はきまつたやうに數奇を凝らしてゐる。男女を問はず空想中の異性は概ね現實の友人であると云ふのも一奇、多くの女子は空想の家に予供さへ發見する。家屋建築の空想は必ずしも戀愛及結婚の空想に限つたことはない。設計的本能を有するかとも思はれる程に巧みな家屋建築の空想に耽る者もある。生活の方便とも見られる事柄が空想の內容を形づくる場合は貧民の多く經驗する所である。

心理學者ガルトンは、人每にその心象の性質にも多大の差異あることを先唱した。彼の研究は色又は輪廓の心象をあり〴〵と描き得る人もあれば心象なる此語さへも單なる比喩に過ぎないと思ふ程その描出の能力を缺いてゐる人のあることを例證した。哲學者その他一般に抽象的の思考に耽る人々は後者たる方にかたむき小兒は前者の選手である女子に至つてはその棟梁であると云つた。心理學者ビネットはガルトンの研究法に依つたもの、

尙ほ一歩を進めたものである。彼は心象が如何なる程度まで意思の支配を受けるかを研究した。研究の對象に彼の姉妹を用ゐて多年苦心の結果兩人の間に著しいタイプの差異を認めた。ふたりとも心象を描くの能力は持つてゐても妻はそが爲めに大なる努力を要し而もその心象が姉のそれよりも不完全で又たそれをば種々に豹變し得るの能力を缺いてゐた。姉をして若しその心象を自發的に受働的空想のやうに自發的に起らしめばその內容は豐富且つ複雜となる計りであつた。乍併、妹は非常に明確なる記憶心象と、其をば任意的に描き得る大なる力と、實驗的暗示のまに〳〵迅速に且つ容易に豹變し得るの能力を持つてゐた。そのかはり自發的コントロールを缺いてゐたから心象は意思の作用なくては起り得べからざるものとまで思つて居たのである。

小兒の空想は右の姉の部に屬する。小兒の空想は期せずして湧いて來る。變幻奇怪、殆ど豫想することは出來ない。小兒の空想は風の空想である。時とすると意思にさからふてまでも現はれる空想がある。この空想は激しい情緒や溫度の疲勞に關聯して伴ふもので旣に病的空想に近いと云つても可い。

精神の內容が豐富になるにつれて空想はます〳〵複雜となり自發的となりその空想を器械的に働かせる所より新奇の結合いはゆる創作的想像を生ずるやうになる。蓋し世に大發明と稱せられるものも多年の苦心勞作の結果ではあらうが又た理論的空想を器械的に働かせた結果つひに鍵を握つたのであらう。事實、大發明家の傳記が之を證明する所で又た彼等の多數は少年時代からの空想家であつたことも疑はれない。スペンサーはその傳記の中に「極端なる架空癖」が少年時代から年壯に至るまで打續いたと云つてゐる。「架空癖の有害なるは誰しも之を信ずれども、我はしからず。中庸を保つことを得ば却て有利なり。是れ一種の建設的想像にして之なくば大業を成し遂ぐること能はず我が架空癖は大業を成し遂ぐべき器械たり道具たる能力が自發的に活動したるに外ならず」と云つてゐる。幾多の偉人の傳記も亦たスペンサーの主張をたしかめてゐる以上一概に空想を斥けるのは決して理想的敎育ではない。音樂も美術も文學も大空想家に負ふ所は少なくない。しかしながら著へられざる精神は偉大なる空想の寶庫ではなく物ういやうな空想に耽る者に創造的衝動はめぐまれない。モザートやラファエルの空想は實際的勞作に服して得たる空想である。ナポレオンやモハメットはいづれも空想家の人であつたことを記せねばならぬ。涅槃の現出は實に精神的努力の結果である。

美的空想は精神の平靜なる場合。視心象のおのづから浮び出づる場合は經驗せられる。文學も亦この種空想の自發的ひらめきに負ふ所や極めて大。その例にコレリッヂのKubla Khanを擧げるの必要もない。繰返して云ふが精神的內容に富む者にして始めて夢や空想の主體たることを得ると共にその貧富の如何に由て夢や空想の高卑が分れる。赤兒や痴者は恐らくは空想しはしないだらう。蓋し彼等は夢たり空想たり得べき心的印象に乏しいからである。生活に追はれて單調なる勞働に服する者には夢も空想もないであらう。蓋し彼等の境遇がその材料を與へないからである。身體の疲勞が直ちに眠りを誘ふからである。西比利亞の囚人に取つては家庭友人の心象さへ年と共に朧ろになる、空想の物的特質は聾、盲、及び筋肉の弛緩である。空想に耽る間はあたりの物音に對して全く不關焉の態度を取る。是れ聾である。眼前の事物に對してFar awayの眺めをやる。是れめくらである。眼筋が弛んで視線が出會はないやうに、平行的になる。その他步行、乘馬、裁縫、洗濯等の如きすべて單調なる自働的の仕事に從ふ場合の空想に於て筋肉弛緩の著しい例は常に發見せられる。

黃昏時、月の夜、寂寥、しめつた音樂、波の音、瀧の音、すべて注意を疲らすやうな單調音、興味のない講義や說敎や演說や、ボッと燃え立つてゐる火を見詰める時、遠い〳〵景色を眺めやる時な

どは、皆空想に有利なる外界條件である。而してこの條件は身體的精神的疲勞を爲すの條件なるが故に身體的精神的疲勞は空想に有利であると云へる。午後の學課、眠る前の床の中が空想に有利なる亦た此理に外ならない。

身體的精神的疲勞はやがて注意の不活潑なることを意味する。さればとて注意の不活潑なる時のみ空想の好時ではない。たま〳〵有意的注意を拂つて更めて空想の題目を捉へることがある。而してその題目が不愉快ならば消えて失くなる。前にも述べたが事實の有無に拘らず論理的次序に依て物語めいた空想を打建てる場合などが是である。空想に伴ふ情緒は常に沈んでゐる是れ恐らくは筋肉や神經系統の弛緩するが爲めであらう。

空想その物は病的でない限りは何時として愉快を覺えざるはない。之を否定して空想は愉快を搔亂する要素であると云ふ者もあるが是れ單に空想後の結果を見て空想その物を内省しないからの謬見であらう。空想その物は決して不愉快ではない。

時とすると悲しい傷ましい空想さへも樂まれる。黄昏時の空想は最も沈んだ情緒の色を帶びると共に往々道德的宗教的希求に依て特色化せられる。斯う云ふ空想の氣分は人に一種の安息を與へるものである。

吾人は病的空想に就て一言するの機會に接した。病的空想の場合には筋肉の弛緩と云ふことはなくて局部的麻痺及び硬固(コリ)が顏面や兩手や特殊の運動に現はれる。この空想は大人の多く經驗する所で快い鬱憂や甘き苦痛を覺える普通の空想とは截然區別すべきものである。凡そ内容は實際的の悲痛困厄で、極めて想像の影に乏しい。その病的傾向はしば〳〵自我に意識せられ心を他に轉ずる努力に依て避け得られる。若夫れ身體的不健全の之に伴ふあらばこの空想は堪ふべからざる壓迫を感ずるのである。もがけども〳〵之を避けるに意思の力は餘りに無能となる。

サー。ジエムス。クリヒトン。ブロウンの見解に依ればあらゆる夢及び空想の心的狀態は或病的傾向を持つてゐるもの、換言すれば健全なる精神には心身上何等の病的傾向を見出すことは出來ないものである。之をたしかめるために癲癇病の發作とも思はれるやうな種々の空想を引例して空想に囚はれたと云ふ天才の人々は空想のために如何に事業の阻害を受けたかを論じた。しかしこの見解が果して正當なるや否やは今姑く疑問として殘さねばなるまい。今日までの研究に依れば空想が病的に傾き易いのは主として視的想像力の强い人々に限られてゐる。文學上宗教上の大空想家も概ね視的想像力のすこぶる發達した人々であつた。ダンテ、ミルトン、モハメツト、スヰンデンバルグ皆是れである。

兩性間に於ける空想の内容形式が如何に大なる相違を示すかは以上の所説に依てやゝ察せられるであらう。是れ一は遺傳及び傳習的訓練に由るのであらうけれども又た以て兩性間の相違が如何に内存的で根本的であるかが解る。

經濟學史上の一奇觀

小川節

經濟學史を繙く者の必ず目擊する一奇觀は個人主義及び社會主義の兩學者が彼の價値勞力說卽ち財の價値は勞力に因り生ずるものにして隨て之が高を決定する唯一の原因は勞力の分量にありと云ふ說に就て偶然にも一致したること是なり。

今參考の爲めリカード、バスチヤ幷にマルクス、ラツサル等主なる兩派學者の諸說を揭げば凡そ左の如し。

一、リカードの說。財物が價値を有し隨て交換價値を得るが爲には固より其貨物が效用あることを必要とするも其外尙(一)財貨の稀少なることを必要とするも其外尙(一)財貨の稀少なることを必(二)之を得るに必要なる勞力の分量あることを必要とするものなり然れども今日此の第一の要件に依りて其交換價値を定めらるゝ貨物は甚だ稀れにして多くは皆な第二の要件卽ち其生產に要せられたる勞力の分量によりてのみ支配せらるゝもの